

統合開発環境 PM plus を使った I/Oポート実験プログラムのビルド

第4章では、Appliletを使って初期化コードを生成しました。本章では、統合開発環境PM plus (プロジェクト・マネージャ)でビルド(コンパイル/アセンブル/リンク)を行い、システム・シミュレータSM+やフラッシュ・メモリ書き込みツール WriteEZ2で使用するオブジェクトを生成させます。

一般的なマイコン開発環境ではこの段階からのスタートなので、プロジェクトを作成してライブラリを登録したり、起動部分からのコード記述などが必要になってきますが、78K0Sの場合にはAppliletで基本的なコードは生成されているので比較的簡単です。

5-1 PM plusの起動

まず、PM plusを起動します。Windowsのスタート・メニューから、NEC Tools32→PM plusで、PM plusを起動すると、PM plusが立ち上がります(図5-1)。

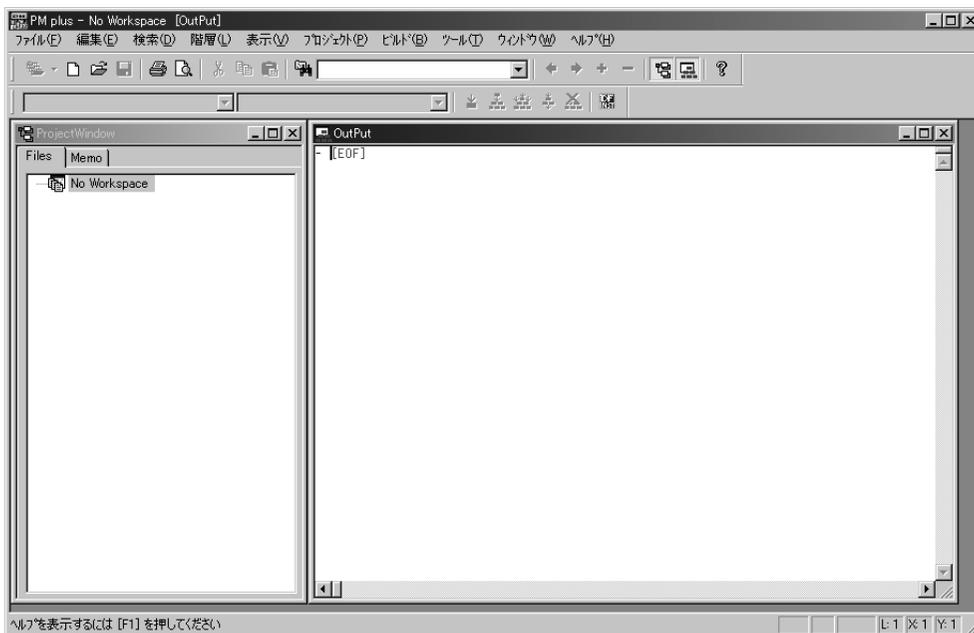


図5-1 統合開発環境PM plusの起動画面